

帰国隊員／青年支援プロジェクト報告書

2009年3月2日

桜美林大学大学院

言語教育専攻 日本語教育専修

M1 後田 聡子

このたびは、支援費を支給して頂き、本当にありがとうございました。2009年1月末から3週間ブラジルに行き、充実した調査を行うことができました。その結果を次のとおりご報告致します。

1. スケジュール

	場所	主な活動内容
1/29	成田発	移動
1/30-2/13	レシフェ(ブラジル)	日本語学校教師インタビュー・学校見学
2/13-2/15	ブラジリア(ブラジル)	ブラジリア大学関係者インタビュー・学校見学
2/15-2/19	サンパウロ(ブラジル)	日本語教育関係者インタビュー・学校見学
2/19	サンパウロ発	移動
2/21	成田着	帰国

2. 経費(支援費30万円)

航空運賃	244,150
ビザ代	3,000
自宅～成田空港 交通費	6,000
*食費 他	46,850
合計	300,000

*不足分は自己負担

3. 調査目的

修士論文のデータ収集。修士論文のテーマは『ブラジルにおける非日本語母語話者の「教師の成長」』である。これを明らかにするため、非日本語母語話者教師自身の考えや彼・彼女らに養成講座や研修を実施する側の考えを知ることが目的とした。

4. 調査方法

事前に、ブラジルの教育及び日本語教育の現状と、ブラジルの日本語教師が受講可能な教師養成講座・教師研修の現状を調査(先行文献等)した。メールにて元赴任校の現地教師にアンケート2種類(教師観・学習者観を問うもの)を実施した。さらに現地教師が受講可能な養成講座や教師研修の企画・運営等担当者とコンタクトを取り、各研修の狙いやシラバスなどについての情報を得た。

現地では、主に1対1での半構造化インタビュー(30分から2時間程度)を実施した。ただし被験者の都合によっては、2名同時に行ったこともある(2回)。被験者にはインタビュー実施前に調査の目的を説明し、承諾書にサインをお願いした。またインタビューの様子はICレコーダーで録音した。なるべく被験者に都合のよい場所・時間帯に合わせて行った。

現地教師には、これまでに参加した研修で学んだこと、今後希望する研修内容、研修以外に自身の成長に役立っていることなどについて聞いた。

運営側には、研修での狙い、配慮している点、課題などについて聞いた。また今後のブラジルにおける日本語教育の展望についても意見を聞いた。

5. 調査結果

各地で親切に対応して頂き、渡航前に予定していたより多くの方々にインタビューできた。結果として19名(およそ25時間)分のインタビューデータを入手した。現在、聞き直しを行い、内容を整理している最中である。3月中には作業を終え、4月以降データ分析に取り掛かりたい。非母語話者教師がどのような手段・考えを持って日本語教育にかかわり、成長しているのか。また、それを支える養成講座や教師研修はどうあるべきか、を明らかにしたい。

各校や被験者からの提供、貸し出しを受けて、数冊の書籍資料、紙ベースの資料も入手した。参考文献として活用したい。

6. 今後の予定

今夏には修士論文の中間試問を受け、2010年春の修了を目指す。中間試問までに今回収集したデータの分析を終え、並行して執筆に着手したい。

以上